箱根町景観施策推進会議第 19 回会議　次第

日時：平成 27 年 2 月 24 日（火）
13：30～14：30
場所：郷土資料館　学習室

1　あいさつ

2　議題

⑴　箱根町公共サインガイドラインの運用について

⑵　その他

箱根町景観施策推進会議第 19 回会議　資料目録

公共サインガイドラインに係る調査集計結果　…　資料 1

平成 26 年に作成した公共サイン　…　資料 2

日　時	平成 27 年 2 月 24 日(火) 13 時 30 分から 14 時 30 分まで	場　所	郷土資料館　学習室
出席者	会議メンバー：7 名 アドバイザー：1 名（田邉氏） 都市整備課：川口課長、関野係長、大木主任主事、小柳主事補		

議題、会議概要等

都市整備課長のあいさつ、アドバイザー紹介の後に、次第に添って会議を進行したものである。

1　箱根町公共サインガイドラインの運用について

資料 1「公共サインガイドラインに係る調査集計結果」について、事務局より説明をした後、資料 2「平成 26 年に作成した公共サイン」について、それぞれの担当から説明を受けたものである。その後それぞれの資料に基づき、アドバイザーを交え協議したものである。

2　その他

町の景観施策全般について、メンバー及びアドバイザーから意見を頂いたものである。

箱根町景観施策推進会議　第 19 回会議　会議録

議題	(1)　箱根町公共サインガイドラインの運用について
協議概要	平成 23 年度に策定した「箱根町公共サインガイドライン」について、事前に回答してもらったアンケートの集計結果（資料 1）と実際に作成された看板の写真（資料 2）等を踏まえ、平成 26 年に作成した公共サインについて、アドバイザーを交え協議したものである。
協議	◎アンケート集計結果だけでは、どのような公共サインを作成したのかわかりづらいので、資料 2 にある成果物について、各課の担当から説明された上で、皆さんの意見を伺いたい。（事務局） ◎資料 2 の 1 ページから 3 ページまで、①～⑧が観光課の作成した案内板と解説板である。これらはハイキングコースに設置しており、色彩や字体等ガイドラインを参考に作成している。これらは順次入れ替えを実施している。（観光課） →以前の案内板は日本語表記だけだが、新しいものは英語表記が加わっている。これは色彩などと同じくガイドラインに合わせたということか。（事務局） →議会からの要望等もあって全てではないが、コースごとに順次英語表記を入れたものに更新していく予定である。（観光課） →今回の案内板は躯体から作り直しているか。去年の話では躯体を生かし表示面だけ張り替えると聞いたが。（上下水道温泉課） →今回は躯体から表示面まですべて作り直している。（観光課） →このタイプの案内板は非常に一般的で、どこの登山道でも同じようなものが設置してあるが実は難しい。案内板が曖昧で登山客が迷うこともある。今回の案内板はシンプルだが整然と作ってあり、表記が完全に統一されていて非常に明快である。 　また簡単なようなことだが、1 方向に二つの目的地がある場合など、文字数の関係から案内板中央の空間にまで文字を入れてしまう場合があるが、中央の空間がなくなると、どの方向にどの目的地があるのか非常に分かり辛くなる。この案内板は中央の空間が適切でシンプルだがよくできていると思う。 　なお案内板の素材は木材だと思うが、逗子市の余り良くない例で、同じタイプの案内板を設置しているが、おそらく加工の問題で木製の躯体の上に白いアクリル板を張り付けてそこに表記をしている。それだと周辺の景観になじむよう木製の躯体を使用しても自然の素材感が生きてこない。この案内板は木製の躯体に文字を掘り込む手間をかけた甲斐があったと思う。（アドバイザー）

	◎資料2の⑨～⑫までが企画課の担当で、ガイドラインに準じていない理由は事務局からもアンケートの結果説明で説明していただいたが、小田原市、湯河原町、真鶴町、箱根町の1市3町で構成される箱根ジオパーク推進協議会で設置したもののため、デザインや色などを各市町と統一するためガイドラインに準じていない。⑨・⑩・⑫がジオサイトの解説板で、⑪が総合案内板となる。⑨・⑪.⑫が今回新設したもので、⑩は既存の看板を作り直したものである。（企画課） →前回の会議で支柱の色をガイドラインに合わせるという話があったようだが、他の市町に設置する看板は支柱の色が違うのか。（事務局） →他市町に設置するものも色やデザインは統一している。（企画課） →以前看板の制作検討会に出席した際、箱根は自然公園法や屋外広告物条例が厳しいので極力箱根町の規制等に規格を合わせて欲しいとの話をしたことがあるが、他市町もその話を受け入れてくれて、だいぶガイドラインに沿った、かなり箱根らしさが出ている看板になっていると思う。（上下水道温泉課） →このジオパークの看板は1市3町で作成したもので、厳密に言えば箱根町の公共サインとは言えないかもしれないが、箱根町も大きく関わっているため今回資料に載せさせて頂いた。 アンケートでガイドラインには準じていないという回答を貰っているが、支柱は茶色で板面も下地に茶系統のグラデーションを入れるなどの配慮があるため、他の公共サインと比べてもあまり違和感はないと思う。 またこの看板の支柱などは金属製だと思うが、今後制作する看板に近隣市町の間伐材などを使うのは可能か。（事務局） →耐久性の問題もあるので難しい。（企画課） →他市町に設置するものと統一するという事情があるため、ガイドラインに準じてないということだが、おおむねガイドラインに準じていると言えるので大きな問題はないと思う。 このタイプの看板の課題だが、まず表示面の耐久性はおおよそ10年が限界であるため維持管理が必要だが、表示面の更新だけでなく情報も更新しないと内容が陳腐化する。また板面が劣化し文字が読みづらくなると観光客に不快な思いをさせてしまうため定期的な維持管理が必須である。 また作成するデザイナーの悪い癖で、看板を作る際に楽しいものや変化のある板面を作ろうとしてやりすぎてしまうことが多々ある。たとえば⑪の案内板はグラデーションが多用されているが、使わなくとも表現できる部分がいくつもあり板面が混乱しているようにも見える。やりすぎずに伝えたいことを表現するのは難しいが、デザインをやりすぎないことも重要だと思う。 あと⑩の看板だが、既存の躯体を利用したのは問題ないが、新設する場合は高さを考えた方が良いと思う。この看板だと風景と一緒に看板を見る

	形になると思うが、看板で芦ノ湖の風景が一部隠れてしまっているため新設する場合はもう少し高さを考えた方が良いと思う。全体としてはまとまりのあるサインだと思う。（アドバイザー） ◎資料２の⑬～㉟までが生涯学習課で作成した看板で、㉟以外は箱根関所に設置したものである。色や字体などはガイドラインに沿ったものにしているが⑰と⑱は箱根関所の雰囲気を壊さないために書体を別のものにしている。㉟は看板の更新に合わせてガイドラインに沿ったものにしている。（生涯学習課） →㉛と㉜の案内板だが、板面の大きさに比べて文字がかなり小さい印象を受けるが、何か理由があるのか。（事務局） →特に理由はないが、板面をもう少し小さくした方がいいとは思う。（生涯学習課） →⑰と⑱がガイドラインに沿っていないとの説明があったが、ガイドラインでは関所のような歴史的建造物で和風の意匠が求められる場合は状況に応じて別の書体を使ってもよいとなっているため問題はないと思う。また写真にある書体の方が雰囲気が出て観光客は喜ぶと思う。 　それと今回かなり大量に看板を作成しているが、業者委託なのか自作なのか。（上下水道温泉課） →全部業者委託のようである。（生涯学習課） →箱根関所は見学コースが設定されている施設のため、どうしてもサインが多数必要になるが、今回作成されたサインは基本的に茶色の板面に白文字が使用されていて統一感があって非常によいと思う。 　人の行動を制限するための看板をこの手の施設では作る必要があるが、表現に柔らかい言葉が使われていておもてなしという観点からは良く考えられていると思う。 　課題としてはまず⑬の料金案内板の中で緑や黄色が使われているが、これは他の案内等と連動されているのかどうか。他の案内等と連動されていれば色で区分けする意味があるが、ないのであれば全体の中に溶け込むような色合いにした方が良い。 　⑰の筆文字は場所の特性を踏まえて考えられているためガイドラインでも問題なく、よく考えられていると思う。 　㉗又は㉜で板面の大きさに対して文字が小さいとの質問が出たが、日本語と英語の文字の大きさの対比が日本語が中心で英語が過小に見える。たとえば㉒のように日本語の文章があり、それに対応した英文を表示する場合と単語に対して英語を表示する場合で少し比率を変えた方が良いと思う。ガイドラインの事例の中で示しているのは日本語のサイズが３に対して英語のサイズが１と、３対１になるように示しているが、そのぐらいの比率にすると英文だけやけに小さいという印象が無くなると思う。文字の

	サイズを設定する際、日本語は文字サイズの 200 倍の距離から読め、英語は 300 倍の距離から読める。つまり５ｃｍの文字は 10m 下がって読めることになる。それを頭に入れておくと、英語の文字サイズが１ｃｍだとすると 3m まで近づかないと読めないということが見えてくるので、設置する空間でどこからサインを見るのか考えて逆算していくとサインの大きさが見えてくるので、その辺りを考えながらサインの大きさというものを設定すると良いと思う。（アドバイザー） ◎資料 2 の㊱が都市整備課で作成した看板で、放置自転車撤去についての一時的な看板だがガイドラインに沿った文体にして、ラミネート加工したものを添付した写真のように自転車に括り付ける形で設置した。今気づいたがガイドラインに沿って作成したのに括り付けた紐が緑色であるため今後は注意しようと思う。（都市整備課） →このサインは短期間かつ小さなもので、反復して使われるものを統一して運用することは非常に良いと思う。 　何かを警告するという内容のため、他市町だと黄色い地色や赤い文字を使用して関係ない人には非常に不快な情報となるものだが、これは静かに粛々と必要なことを伝える内容になっていて非常に良いと思う。（アドバイザー）
議題	**(2)　その他**
協議概要	箱根町の景観施策全般についてメンバーやアドバイザーから意見を頂いたものである。
協議	◎今は春節の時期で多くの中国人が日本を訪れている。今のサインの標記は日本語と英語の併記だが、将来的に３ヵ国語や多言語対応にすることは考えているか。（アドバイザー） →以前の会議でも出たが、ガイドラインの基本は日本語と英語の併記で、中国語や韓国語を載せると板面が大きくなる、文字を小さくして板面に詰め込むような表示になってしまうという意見があり、また日本に来られる中国などアジア圏の方の大抵は英語を解するので日本語と英語が併記してあれば大体は賄えるという意見が出ている。だが中国から来られる方が増えており、2020 年に東京オリンピックが開催されるとアジア圏の方の来訪が増加することが考えられるため、今後は多言語表記についても考えに入れていった方がよいと思う。（事務局） →日本語と英語の併記にする方針が確定していれば安心だが、ある部署では中国語を入れる、別の部署では４ヵ国語標記にするなど、バラバラになることが一番よくないと思う。多言語表記に切替える際は会議を開き全体の中で少しずつ変えていくのが良いと思う。（アドバイザー）

	◎最近景観条例の届出をせず無届で着手している工事が有るようなのでもっと業者への周知を進めた方が良いのでは。施工業者は町外の業者が多いので町の広報だけでなく別の方法を考える必要があると思う。（上下水道温泉課） →広報とは別の周知方法について検討してみます。（事務局） ◎全体を通しての意見だが、3～4 年前にガイドラインを策定したが、当時集めた箱根町内のサインの資料を見返すとかなり多様で、デザインや色色合い、また表示してある内容の質も多様なものがあり大変だと思っていたが、今日少しずつではあるがブレがかなり小さくなっており、全体的に茶色に白文字になり表示内容も精査されてゴシック体中心に書体を設定されてまとまりが出てきたと思う。 基本的な部分を整えていく作業は一段落したと思うが、これからその中でどのように箱根らしさを付け加えていくか、背景になるサインとアピールしていくようなサインの 2 つの方向性が考えられるようになってきたかと思う。 だが公共サインというものは地味であるものなのでやりすぎないのが大事であるが、基本的なデザインの中に一工夫をしてさらに箱根らしい、観光地として観光客により魅力を感じてもらえるようなものが作れるようになればよりこういった会議の意義が深まると思う（アドバイザー）